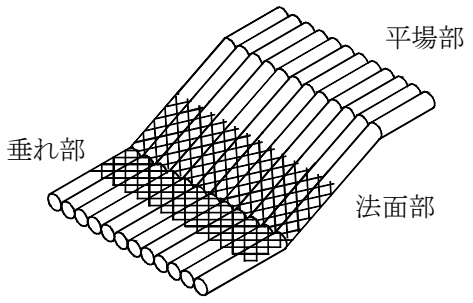
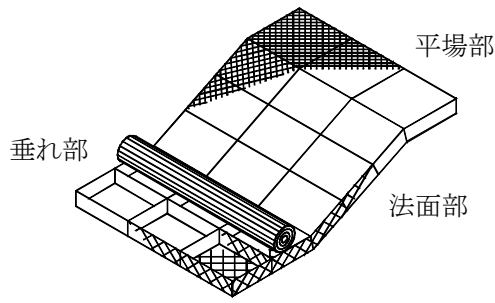


## 円筒形じゃかご ・ かごマット(スロープ式) 比較表

	円筒形じゃかご	かごマット(スロープ式)
仕様書	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本工業規格 <b>JIS A 5513</b> じゃかご（亜鉛・アルミニウム合金めっき鉄線を使用する場合は、国土交通省及び地方自治体の共通仕様書による）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 鉄線籠型護岸の設計・施工技術基準(案) 国土交通省河川局治水課</li> <li>■ 国土交通省特記仕様書</li> </ul>
構造	<p>金網で構成される、独立型の円筒形かご。</p> 	<p>パネル状の金網で構成され、隣接するかごの仕切り面を共用する、連結型の箱形かご。</p> 
寸法	<p>網線： <b>3.2、4.0、5.0mm</b>            網目： <b>100、130、150mm</b>            外径： <b>45、60、90cm</b>            長さ： <b>3、4、5、6、7、8m</b></p> <p>割付： 外径 <b>45cm→50cm</b>、外径 <b>60cm→66cm</b>、外径 <b>90cm→100cm</b></p>	<p><b>高さ 30cm タイプ</b>            本体： 網線 <b>3.2mm</b>、網目 <b>75mm</b>      仕切間隔：            上蓋： 網線 <b>4.0mm</b>、網目 <b>65mm</b>      ・延長方向は <b>2.0m</b> 以下  <b>高さ 50cm タイプ</b>            本体： 網線 <b>4.0mm</b>、網目 <b>100mm</b>      ・法長方向は <b>1.5m</b> 以下、ただし            上蓋： 網線 <b>5.0mm</b>、網目 <b>65mm</b>      平端部は <b>2.0m</b> 以下</p>
材質	<ul style="list-style-type: none"> <li>n 亜鉛めっき鉄線</li> <li>n 亜鉛・アルミニウム合金めっき鉄線(本格使用向け)</li> <li>n アルミニウムめっき鉄線、合成樹脂被覆鉄線(海岸、温泉地帯向け)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>n 亜鉛・アルミニウム合金めっき鉄線</li> <li>n 亜鉛・アルミニウム・マグネシウム合金めっき鉄線</li> <li>n 合成樹脂被覆鉄線</li> </ul>
組立て方法	<p>胴網に丸輪を入れて円筒形を整え、横蓋に胴網を巻き付けて組み立てる。</p>	<p>工場で加工されたパネル状の金網を、施工現場にて結合コイルを用いて箱形に組み立てる。組み立て時にかご同士を連結する。</p>
中詰め方法	<p>詰石穴より作業員が手詰めをする。</p>	<p>重機にて行うが、仕上げを作業員が手詰めする。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>n 適用法面勾配は <b>1:1.5</b> より緩くとされているが、<b>1:1.0</b> での既往事例もある。</li> <li>n かご自身が柔軟構造であり、地形の変化に追従して法面を保護する。</li> <li>n 法面の勾配変化や法長変化に柔軟に対応できる。</li> <li>n かごが独立しているため、撤去や補修が容易であり、メンテナンス性に優れる。</li> <li>n 平成 <b>17</b> 年度より、国土交通省及び地方自治体の共通仕様書等で、従来の亜鉛めっき品に加え、亜鉛・アルミニウム合金めっき品が規定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>n 適用法面勾配は <b>1:2.0</b> より緩く、滑り止めを施した場合は <b>1:1.5</b> まで適用。</li> <li>n かご全体が連結された一体構造であり、柔軟性も有する。</li> <li>n 上蓋の網目が細かく滑りやすいため、転倒防止として粗面めっき鉄線を使用する。</li> </ul>
主な用途	<p>法覆工、根固工、排水工、水制工</p>	<p>法覆工、床止工</p>